

第16回 ワークショップ検討タスク議事録

1. 日時：平成30年8月2日（木）13時20分～15時10分

2. 場所：日本電気協会 4階A会議室

3. 出席者

出席委員：渡邊^邦主査（JANSI），中條（中央大学），島津（北海道電力），
辰巳（北陸電力），近東（関西電力），浅田（三菱重工業），
増山（東芝エネルギーシステムズ）*1，芝原（日立GEニュークリアエナジー），
齋藤（JANSI） [計9名]

代理出席者：本田（九州電力，米丸代理），鈴木^哲（中部電力，鈴木^直代理） [計2名]

欠席委員：飯塚（東京大学），宮腰（三菱重工業） [計2名]

事務局：渡邊^貴，大村（日本電気協会） [計2名]

*1：14:30まで出席

4. 配付資料

No. 16-1 第15回ワークショップ検討タスク 議事録（案）

No. 16-2 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク 委員名簿

No. 16-3 平成29年度 JEAC4111 コースⅣ講習会（ワークショップ）プログラム

No. 16-4 平成29年度コースⅣ（ワークショップ）アンケート分析・評価結果

No. 16-5 2018 Nuclear Oversight Conference -Kansas City, MO

5. 議事

(1) 代理出席者の確認

事務局より，代理出席者の紹介があり，主査により承認された。

(2) 議事録の確認

資料No. 16-1の議事録案が承認された。

(3) 平成30年度ワークショップの開催内容について

主査より，資料No. 16-3～16-4に基づき，平成29年度のプログラム，アンケート分析・評価結果が紹介された。

今年度のワークショップの内容について議論した結果，以下のような案となり，主査から講演候補者に依頼することとなった。それぞれ質疑応答時間を十分に確保する

ため、パネルディスカッションは実施しないこととなった。

○日時：11月2日（金）

○場所：日本電気協会 会議室

○題目	講演候補者（敬称略）	講演目安時間
・ 品証技術基準追加 21 項目の国の意図	（NRA 小坂）	40～50分
・ ROPの全体像	（関西電力 爾見）	40～50分
・ CAPの取組み	（東京電力HD 未定）	30～40分
・ CAPの取組み	（関西電力 田中）	30～40分
・ CAP海外調査結果	（JANSI 渡邊）	30～40分
・ リスクマネジメントの自主的取り組み	（JANSI 倉田）	30～40分
・ 変更管理	（日立GE 芝原）	30～40分

○プログラム 締切：9月中

○リハーサル：10月11日（木）午後 日本電気協会会議室

（主な検討，意見，コメント）

- ・ 資料16-4の昨年度のアンケートでは，テーマとして，安全文化，リーダーシップ，リスク対応，内部監査，マネジメントレビュー，教育・訓練，不適合管理，継続的改善等が挙がっていた。
 - ・ 品質保証分科会からのテーマの提案（意見）として，CAP，一般産業品の管理，MTO，安全とセキュリティ及びROPを見据えて電気協会で協議している内容や方向性があった。
 - ・ 国から提示された品証技術基準21項目に入るものが関心のあるところである。
 - ・ 原子力規格委員会シンポジウムで，東電，関電からCAP，CMを話していただいた。変更管理は前々から取り組んでいる東芝，日立，三菱から話していただきたい。
 - ・ コンディションレポート（CR）で，メーカからどのタイミングで，どのレベルを入力するか。
- これから，発電所を支える電力だけでなく，それを支える作業員，メーカの方からCRをインプットしてもらわないと成立しない。
- ・ CRのガイドラインがある程度共通的に使えば良い。
 - ・ CAP自体のCAP，安全に関わるもののCAP，関わらないもののNon-CAP，コーディングして，統計処理したうえで意味のあるものとなる。

- ・CAPは自分自身が強くなるため、自分の脆弱性を探す方法論である。ヒューマンパフォーマンスを向上して、全体的なパフォーマンスの向上。ハードで原因コード、プロセスコードを付与して、どのプロセス、機器が弱いか。設備機器の弱みにフォーカスした電力もある。
 - ・全体概念からすると、電力会社がコミットしているのはRIDMで、それを構成するパーツがあり、そのベースはCAP、CMである。規制庁にROPを講演いただけるのであれば、それが良い。
 - ・ROPあるいは品証技術基準21項目を規制から話していただくことが良い。
 - ・メーカでは不適合管理は出来上がっているが、それに加えてCAPではなく、それに替えてCAPである。
 - ・ワークショップは11/2であるが、10月から大飯で試運用が始まる。おそらく、まだ混沌とした状態と考える。テーマとしてはタイムリーで良いと考える。
- CAPのテーマで何を議論するか。1つはCRに何を挙げるかである。従来の不適合管理に比べて横断的に分析することが必要になる。そこを議論しなければならない。
- ・資料16-5にプログラムを示したが、アメリカの事業者の会議で、30分くらいで、いろいろな電力が発表し、CAPや変更管理等をテーマにしていた。
- アメリカの会議のように、事例を発表して質疑応答という形が良いかと考える。
- テーマはCAP、変更管理、3つ、4つにテーマを絞って、2電力、2組織くらいに発表いただき、ディスカッションする。そうであれば、本来の目的とずれない。
- ・ISOの2015年版で変更管理が入ってきたが、元々メーカでは実施しており、それを紹介していただければ良いと考える。
 - ・設計の変更管理はあまり問題ない。2015年版であると、計画変更、計画外変更の品質保証である。自分たちだけでなく、調達の部分もある。
- 意外に事業者はプラントメーカの変更管理を知らないかと考える。変更管理を1つのテーマとしてプラントメーカに話してもらうことは良いと思う。
- ・変更した時に、CRに繋がるものが出てくる可能性が高い。変更した時に注意して観測して、積極的にCRを挙げる。
- ・リスク情報活用ということでは、話していただける人としては、関西電力の爾見さんが候補である。
- 規制にROPの話をしていただき、爾見さんに事業者の取組、RIDM、リスク情報等と

する。

- ・ ROPの全体，次にRIDM，その後，事例を話していただく。
- ・ 変更管理をテーマとするのであればJANSIが良い。ガイドラインを作っている。
- ・ 変更管理よりリスクマネジメントの観点で，リスク情報活用を含めて説明していただければ良い。

→JANSIの村田さんあるいは倉田さんが良い。

- ・ 変更管理は日立にお願いしたい。

→取り組んでいる事例はできる。

- ・ ROP及びRIDMで40～50分講演後，質疑。CAP，変更管理，リスク情報活用で30～40分講演後，質疑とする。
- ・ 質疑時間を十分にとり，パネルはなしとする。

以 上